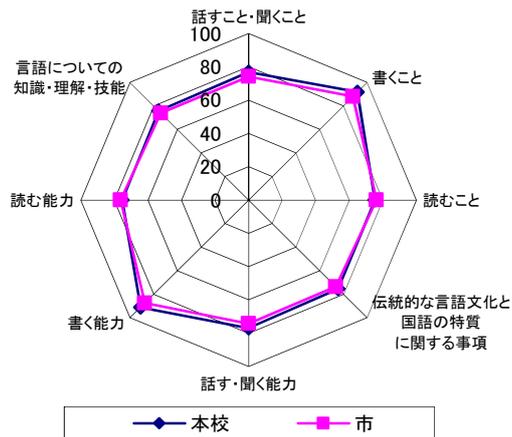


宇都宮市立古里中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	76.9	74.2	68.8
	書くこと	91.8	88.0	73.8
	読むこと	75.3	76.2	71.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	75.4	73.6	68.8
観点別	話す・聞く能力	76.9	74.2	68.8
	書く能力	91.1	87.5	73.8
	読む能力	75.3	76.2	71.7
	言語についての知識・理解・技能	75.8	74.0	68.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

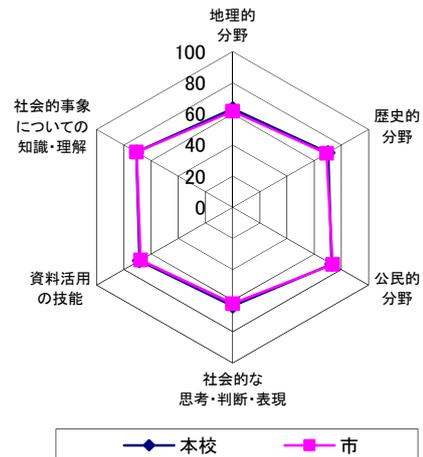
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○平均正答率は市の平均を2.7%上回っている。 ●複数の意見を比較検討し、共通点を見つける問題の正答率が低くなっている。	話すことや聞くことは、コミュニケーションの基本であり、最も重要な部分でもあるため、普段の授業の中から、話し合い活動を積極的に取り入れ、他者の意見に触れる機会を増やしていく。また、相手がどんなことを伝えたいのか、何を言いたいのかを自分で考えながら聞く態度を身につけることができるように普段から声掛けをしていく。話し合いの際には役割分担をするなど、全員が発言する機会を設けることができるように配慮していく。
書くこと	○平均正答率は市の平均を3.8%上回っている。 ●自分の意見に対しての理由や根拠を書くことを苦手としている。	自分の意見に対して、根拠を明確にして表現することを苦手としている生徒が多い。そのため、毎日の授業の中でなぜその意見になったのか、どうしてそのように判断したのかなど、理由や根拠を考えながら取り組むことができるように指導をしていく。また、原稿用紙の使い方や表現の方法など、基礎的な部分を重点的に指導していく。
読むこと	○物語文に関しては、正答率が高く、登場人物の心情や情景描写を捉えることができている。 ●説明文の正答率が低いため、平均正答率は市の平均を0.9%下回っている。	説明文においては、筆者の主張が何なのかをしっかりと把握できるようにしたい。そのために、重要箇所へのマーキングや要約、段落同士の関係などに注目していく指導を行う。 物語文については、登場人物の関係や心情などを把握させたい。そのために、本文へのマーキングやメモ書きなどを行う習慣をつけていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○平均正答率は市の平均を2.2%上回っている。 ●古典の問題では、正答率が低くなっている。	漢字に対して、苦手意識を持っている生徒が多い。授業の始めに漢字テストを実施したり、漢字の家庭学習の方法を伝えたりするなど、日常的に漢字に触れ合う機会を増やしたい。 古典を読むことを苦手としている生徒が非常に多い。独特のニュアンスや同じ言葉なのに現代とは意味の異なる語句に戸惑う生徒が多い。リズムよく読めるように音読の機会を増やし、親しみをもって学ぶことができるようにしていきたい。

宇都宮市立古里中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	63.2	61.7	54.6
	歴史的分野	70.2	69.2	59.6
	公民的分野	72.9	73.6	67.8
観点別	社会的な思考・判断・表現	63.3	61.9	51.9
	資料活用の技能	68.5	67.7	57.7
	社会的事象についての知識・理解	70.8	70.7	64.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
 (社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

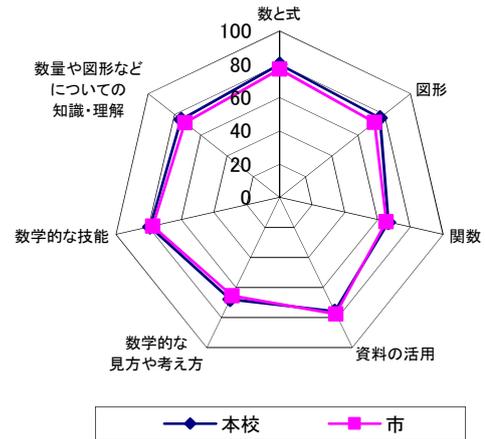
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○市平均より1.5%高い。特に、日本の諸地域、身近な地域の調査についての問題の正答率は、すべて市平均を上回っている。 ●世界の諸地域に関する問題では、3問中2問が市平均を下回っている。	正答率の低かったヨーロッパと北アメリカ州については、図表を用いてまとめるなど今後も指導の工夫をしていく。また、ヨーロッパの農業地域について資料をもとに把握する問題の正答率が低かったため、資料の読み取りに関しては、資料集を授業の中でさらに活用し、資料の読み取り・考察に慣れさせる必要がある。
歴史的分野	○市平均より1%高い。特に、鎌倉幕府の御家人の生活について資料をもとに考察する問題では、市平均を4.4%上回っている。 ●古代の日本と世界についての問題は、市平均を下回っている。	歴史的事象を自分のことととらえ、関心を高めることができるよう、共感したり、歴史的事象を身近にとらえたりして、知識が定着するように、教材などを工夫して授業を展開することを心がける。 年表を活用することで、年代・世紀を確認した授業展開を行う。また、資料活用の技能、思考・判断力・表現力を伸ばすことを意識した授業展開を心がける。
公民的分野	●市平均より0.7%低い。公民の問題10問中5問が市平均を下回っている。 ○日本の高齢化社会について資料を読み取る問題は、市平均より4.7%高い。	この領域は、自分たちが実際に接している社会の分析にあたる内容であるので、まずしっかり知識を身につけさせたい。その上で、単なる暗記にとどまらず、自分の将来にどのように関わるのかを実感できる授業を行ったり、時事問題に目を向けさせたりする。その上で、自分がこの社会の中でどのような存在でありどのようなことが求められているのか、また将来どのように関わる必要があるかなどについてしっかり考えさせたい。

宇都宮市立古里中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	80.0	77.1	71.0
	図形	76.6	72.4	59.3
	関数	66.5	65.2	51.0
	資料の活用	75.9	77.6	67.1
観点別	数学的な見方や考え方	67.8	65.5	48.8
	数学的な技能	79.2	77.5	69.8
	数量や図形などについての知識・理解	75.1	72.1	61.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

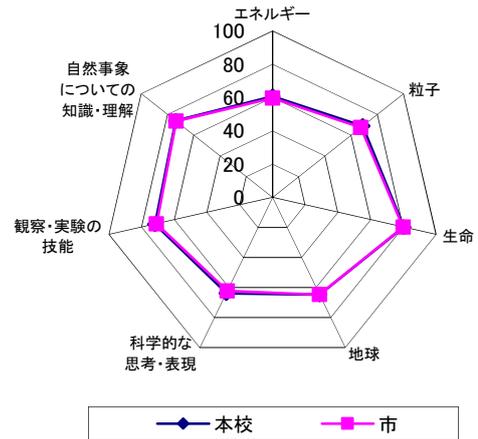
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>○市の平均を2.9%上回っている。</p> <p>○正負の数、式の計算、平方根、連立方程式の基本的な計算の正答率は85～95%である。</p> <p>●平方根や2次方程式などのやや複雑な計算では正答率が下がる。</p> <p>●方程式の立式は市と同じくらいであるが、2次方程式の立式が39.1%と低い正答率となっている。</p>	<p>基本的な計算を着実に定着させるために、今後も個別指導や反復練習などの充実を図る。</p> <p>問題を解決するために方程式をつくることへの理解が不十分である。1年生の学習の1次方程式から、関係を見つけて方程式をつくる練習をさせ、連立方程式、2次方程式と発展させ、定着させたい。</p>
図形	<p>○市の平均を4.2%上回っている。</p> <p>○ほとんどの問題で市を2.3～8.1%上回っている。</p> <p>●三角形の合同の証明の正答率が57.2%となっており、証明についての理解が十分ではない。</p>	<p>合同の証明は2年生の学習内容である。「平行と合同」「三角形と四角形」そして3年生の「相似」「円」とつながっていく。過程と結論の意味、証明のしくみや進め方をもう一度復習させ、理解を深めさせたい。</p>
関数	<p>○市の平均を1.3%上回っている。</p> <p>○関数$y=ax^2$における変化の割合を求める問題は市を12%上回っている。</p> <p>●他の問題の正答率は市をやや下回っており、活用の問題(文章問題を読み取り、関係を表すグラフを選ぶ)の正答率が34.1%だった。</p>	<p>「関数」についての基本的な内容をしっかりと理解させるとともに、発展的な課題に取り組みさせる機会を多くもち、基本的な知識、技能を活用することで、その面白さや便利さを体験させるようにしたい。</p>
資料の活用	<p>○市の平均を1.7%下回っている。</p> <p>●確率の問題は市とほぼ同じであるが、相対度数を求める問題が9.6%低い。</p>	<p>「資料の活用」は1年生の学習内容であるため、用語の意味や求め方などを繰り返し確認し、定着を図るようにする。</p> <p>学習した内容を活用する力を高めるために、身近な事象やゲームなどを取り上げ、興味・関心をもたせる工夫をしながら課題に取り組みさせるようにしたい。</p>

宇都宮市立古里中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	60.8	59.7	57.9
	粒子	68.8	67.4	59.8
	生命	80.2	79.9	73.5
	地球	64.7	64.7	54.6
観点別	科学的な思考・表現	63.7	62.3	56.3
	観察・実験の技能	71.9	70.9	65.4
	自然事象についての知識・理解	73.8	73.5	66.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

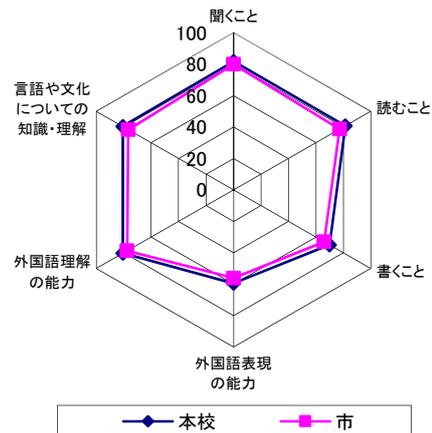
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○市の平均とほぼ同じであった。 ●音の速さを求めたり、慣性によって、等速直線運動が起こることを予測したりする問題は市の平均を上回っているが正答率は低い。磁力線についての問題は市の平均を下回っている。	音の速さを求める計算や磁力線の理解について課題が見られる。各学年時での学習した後の定着が不足していると考えられる。年間を通して復習する時間の確保を考慮してくようにする。
粒子	○市の平均とほぼ同じであった。 ●「密度と質量から、体積を求める式を考えることができる。」「分解の例を理解している。」「塩酸に水酸化ナトリウム水溶液を加えていったときの、水酸化物イオンの数の変化を判断できる。」では市の平均を上回っているが正答率は低い。	密度を求める計算や分解や中和などの化学変化の理解について課題が見られる。各学年時での学習した後の定着が不足していると考えられる。年間を通して復習する時間の確保を考慮してくようにする。
生命	○市の平均とほぼ同じであった。 ●「観察記録から、植物を適切に分類できる。」問題では、市の平均を下回っている。	観察記録が問題の資料として、直接的な資料と捉えられないのではないかと考えられるため、調べ学習をするなど、資料から読み取る授業を取り入れていく。
地球	○市の平均と同じであった。火山については市の平均を上回り、正答率も高い。 ●前線の通過と天気の変化に関して「天気図記号の作図ができる。」「低気圧付近の風の吹き方を理解している。」「寒冷前線通過時の天気の変化を理解している。」では市の平均を下回っている。	実験・観察ができない単元については映像資料等を効果的に提示するとともに、簡単な実験を取り入れ、興味・関心を高める授業を行う。

宇都宮市立古里中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	81.8	79.9	75.7
	読むこと	81.5	77.3	72.8
	書くこと	70.0	66.0	69.3
観点別	外国語表現の能力	59.5	56.1	58.8
	外国語理解の能力	80.6	77.6	72.3
	言語や文化についての知識・理解	80.7	76.6	76.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
 (英語では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>○ほとんどの問題で宇都宮市の平均を上回っている。特に、対話の内容の聞き取りや英文の要点を聞き取る問題については、3%程度上回っている。</p> <p>●英文の要点を聞き取る問題で、行ったことがない場所についての問いでは96.4%の生徒が正解しているが、宇都宮市の平均を1%程下回っている。</p>	<p>英語による授業やALTとの対話活動で多くのアクティブラーニングを取り入れ、聞く能力の向上を図っていきたい。</p> <p>多くの対話活動を取り入れ、繰り返し口頭練習することにより場に応じた応答ができるよう授業を工夫していきたい。</p>
読むこと	<p>○すべての問題で宇都宮市の平均を上回っている。特に、長文の読み取りで、スピーチの内容をふまえて感想文を書く問いでは、宇都宮市の平均を8%上回っている。さまざまな英文の情報・条件をもとに適切な読み取りの問いについては、3~7%宇都宮市を上回っている。</p> <p>●語形・語法の知識・理解を問う問題では、宇都宮市とほぼ同率の問いがある。</p>	<p>授業中の活動で、まとまった英文を正確に読み取る学習を多く取り入れたい。様々な対話文をペアやグループなどで考え、発表することで知識の定着を図りたい。また単元ごとの文法についても、パターンプラクティスや小テストを行うことにより、英語特有の表現を身につけさせていきたい。</p>
書くこと	<p>○ほとんどの問題で宇都宮市の平均を上回っている。特に、基本的な語彙では11%、単語の並べ替えの英作文については8%程度宇都宮市の平均を上回っている問いもある。自分の夢についての英作文も4~8%程度上回っている。</p> <p>●場面に応じて書く英作文は、対話の流れに合った英作文を書く問いでは、1%程宇都宮市を下回った。</p>	<p>場や条件に合う英文を書く演習を多く取り入れた授業を行っていきたい。基本的な語彙や表現の定着を図るため、単語テストやドリル活動を行い、5W1Hを意識した英作文をスムーズに書けるよう工夫していきたい。また自分の意見を表現できるよう様座な表現を教授し定着させていきたい。</p>

宇都宮市立古里中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
自分の考えを書いて発表する力の育成	「言語活動による思考力育成を目指した授業づくり」を研究テーマに、全教科・領域で取り組み、授業研究会を中心とした校内研修を行っている。	「自分の考えを根拠をあげながら話すことができる」の肯定回答が、2年生は市の平均より2.3%上回ったが、1年生は1.1%、3年生は4.5%低い。
家庭学習の習慣化	1日1ページ以上の家庭学習ノートの提出を全校体制でチェックする。	「自分で計画を立てて家庭学習に取り組んでいる」の肯定回答は全学年市の平均より高い。学習時間については市の平均と同様の分布であり、「ほとんどしない」が市の平均より低く、「3時間以上」の割合も平日・土日ともに市の平均より低い。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

英語以外の教科で、市の平均を下回る領域がある。学力の向上を一層推進する必要がある。そのために、わかる授業の実践はもちろんのこと、言語活動を充実させて主体的・対話的な学びをさせることで確かな学力を育成していきたい。また、内容の濃い家庭学習ができるよう指導していきたい。